

# 晩年

## D・A・N 通信

### No.2

2022.08.21~11.20

### 団 士郎

#### 非コロナ騒ぎ顛末

▲月▲日

三連休前日の夜、仕事場で発熱した。休日やっている発熱外来(京都中央病院)に電話した。翌朝、スマホで問診票に書き込み、PCR 検査を病院屋外で受けた。結果は二、三日かかると言われた。その後、熱が少しおさまって安心していたら、日曜日の午後、39.6 の発熱。コロナだなあと覚悟していたら、夜の通知電話で陰性。夕刻には微熱になっていたが、では何の発熱なんだろう？この間、診察も薬もなし。

▲月▲日

症状から夏カゼのようだが、いやー、まいった、まいった。おかしな言い方だが、歳にとって病気なんかするものじゃないな。体力や気力を持っていかれる。咳が出始めているし、微熱も不安定。回復に時間がかかる気がする。ここ数年、徐々に増えていた体重が悩みのタネだったのだが、発熱、咳などが一息ついたところで体重計に乗ってみたら、3 キロ半減っていた。びっくりして再計量。これは嬉しい、維持を目指そう。(結局、じわじわ戻ってしまったのは残念)

▲月▲日

週明け、知人からの情報に基づいて地元の通いやすい場所にあるクリニックを再受診。発熱の話はしないわけにはいかない。すると又コロナ疑念から、二回目の PCR 検査。結果の出るまでクリニック裏口のパイプ椅子で待つ。

今回は 10 分くらいで結果が出て陰性。でも、コロナでないと分かっただけで、混雑している連休明けの診察は、明日以降にと言われる。この段階でも、診察は受けていないし、薬一つ貰っていない。自分の体力、回復力のみが頼りである。コロナ懸念はなくなったので、駅前のスーパーで、食品を買い込んでタクシーで帰宅。今週いっぱい家ごもりすることに決定。

2022/08/21～

▲月▲日

今からこれに出かける。元は女性ライフサイクル研究所というMさんが代表をしてきた組織。その応援団として、依頼されて年一回話すようになって20年近いのではないかな。とにかく長い関わりになった。

何であれ、引き受けていることがあると準備をするから、そこで気付くことも多い。似たようなことを話すのと、同じことを話すのは全く異なる。似ているけれども違っていることを探るのが一番面白い。似すぎていて違いが判らんという聴こえ方の人もあろうが、話者としては同じことばかり話して飽きたなんて経験はない。

考えていると、今、どのあたりを思案しているのかが見えてくることもあって、自分が何をしているのかが面白い。



▲月▲日

「家族の練習問題 第九巻」の校正が届いた。綺麗な色の表紙だ。いろんな人が、丁寧に編集、構成、校正してくださっているのがよくわかる。

発売予定は12月2日。是非お楽しみください。(本のビニールカバー業者がコロナで廃業とか。ぴったりのカバーをする技術が直ぐにはないとかで、発行は年明けになった。今回の編集、構成は「牟田郁子」さんをお願いした。今書店に出ている『文にあたる』の著者でもある人気校正者だ)。

十五年以上かけて九冊目まで辿り着くなんて、考えられなかった。第一巻を出した時のことはよく覚えているが、マンガ出版の難しさを知っていたか

ら、売れないで、出版社を圧迫してしまうようなことがないようにとばかり案じていた。

それが順調に刊行されて今に至るのだから、運が良いと思うしかない。あれもこれも、50歳を過ぎて公務員退職してからの出来事だ。

児童相談所他の25年、その次の25年。ともに充実した時間の塊になった。



▲月▲日

週末はKISWEC 京都国際社会福祉センターで三十年以上継続している家族療法講座メニューから「面接演習」を二日間実施した。コロナ禍の中、七人での開催。あっという間だったと皆が感じていたらしい。

初回家族面接を全員が繰り返し体験できるようプログラムした。皆さんの今後の業務に少しでも役立てばいいがと思う。

▲月▲日

四回目のワクチン接種に大津京近くへ。道中のタクシー運転手は、ネットで某医師がワクチンは不要だと言っている話を延々と。

世の中はいろんな信念が溢れていて、正しさに魅了されている人も多い。私は流行りのおマジナイだと思っているから、意見などない。そんな情報を集めたり、分析したりに時間を取られたくないのだ。なんでもかでも、にわか専門家になるのが好きな世の中に引いている。

▲月▲日

二十余年、一度もなかったことが起きた。新作「木陰の物語」制作の毎月末スケジュールを日程から落としていた。

KISWECのWS、ZOOM講座、ワクチン接種、マガジン50号の編集、東日本大震災家族応援プロジェクト・トークの準備、「家族の練習問題第九巻」校正等、次々と月末対応をしていたら抜けていた。

話のストックはたくさんあるから、その中から校正して、深夜から急遽、描き始めた。

▲月▲日

Nと京阪三条駅で待ち合わせて、大阪現代画廊で開催中の篠原ユキオ展に。その後、私は梅田のカフェに移動して対人援助学マガジン50号の編集。

18時からは「ぼむ」の月例会。今回はメンバー国府宅で恒例のカレーパーティー。

後で気付いたが、中之島で「岡本太郎展」をやっていたのだ。知ってたら午後空き時間に行ったのに。終了後、仕事場に戻って深夜、「木陰の物語」の続きを描く。

▲月▲日

押したスケジュールの中、一昨日から取り掛かった「木陰の物語」新作が完成。明日から東北出張で移動が多くなるので、今日中に対応しておきたかった。対人援助学マガジンの原稿もほぼ届いて、こちらは移動中にも編集、対応可能だ。

▲月▲日

昨日から宮城県多賀城市に来ている。東日本家族応援プロジェクト+。十年の区切りを迎えたものの継続版。今回の漫画展&トークは多賀城文化センターで。マンガの展示はこんな回廊式の壁面。カフェの窓越しにも見えたりする。良い雰囲気。



▲月▲日

福島県白河市図書館で開催中の漫画展とマンガトーク。作品「いじめた側の」の展示に合わせて、いじめ問題について、ここ二十年ほどの変化、不変化の思うところを話す。

結構ややこしい話にしたので、良かったかどうかはわからないが、私としては久々にたっぷり語った。図書館のアプローチに、このような展示で四作品。

▲月▲日

東日本大震災家族応援プロジェクト。今回はNHKの張りつき取材があって、東北エリア局のシリーズニュースとして、4回放映された。Web記事のアドレスを掲載。ニュースも見られます。

宮城 NEWS WEB 仙台放送局「被災地で続く家族漫画展 多賀城」2022年8月27日  
<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20220827/6000020714.html>

宮城 NEWS WEB 仙台放送局「京都の大学院生 津波で前回の保育園長から震災学ぶ」2022年9月4日

<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20220904/6000020815.html>

宮城 NEWS WEB 仙台放送局「震災を描かない漫画展 被災地で支持されるのはなぜ？」2022年9月12日

<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20220912/6000020929.html>



▲月▲日

檜葉町の宝鏡寺にある伝言館。大学院生達と一緒に三度目の訪問。館長早川篤雄さん、副館長安斎育郎さんが迎えてくださり、お話を聞く。

国との裁判を抱えた闘志満々の八十代の人たち。老人のふりをして逃げてちゃ、いけないなあと自戒。

▲月▲日

久々に福島県飯館村を訪問。静かな山の中。耕作放棄してしまえば荒れ放題になるからと蕎麦を植えている花が綺麗。ここで頑張っておられるのを、訪問してお話をうかがった長谷川さんは亡くなった。

道の反対側には、もう他ではあまり見なくなった、除染土が詰まったフレコンバッグの山。



▲月▲日

漫画家仲間で feco Japan の会長でもある篠原ユキオがウクライナの漫画家六人に声をかけてマンガ展にこぎつけた。その展示手伝い(何も役には立たないのだが)に、京都・余花庵に。

このギャラリーでは毎年春先にぼむマンガ展を開いている。今回は会場を無償提供してもらっての開催だ。篠原はウクライナ語の作家紹介翻訳や作品パネル作りを一人で準備した。そういうことの得意な人ではあるが、いやはや感服した。9/25 日曜まで二週間開催だったが、この後、開催したい人、所がないものかな？

**詳細は連載「HITOKOMART」のページ**

▲月▲

全四巻の 1.2 巻を買って読み始めたこの本。第二巻になって、とんでもない展開に。台湾の白色テロの話、ぼんやり知っていたくらいだった。世界の歴史は言論の取り締まりと弾圧で作られている。(この後、第三巻も出た)

事なかれ主義は処世術としてはあり得るが、歴史の中では無価値の賛同者として扱われる。厳しい。



▲月▲日

妻の三回忌、娘が一番小さい孫を連れて早めにやってきている。孫と 74 歳も歳が違うなんて不思議だ。妻は妊娠は知らされていたが、この五人目の孫との対面は叶わなかった。

お爺の一人暮らしのところ里帰りする娘が、親孝行を強いられることになるのでは、何のための実家かわからないだろうから、この間はおばあちゃん役割(主夫?)をしっかり果たしている昨日、今日だ。私、家事は結構上手なのです。

▲月▲日

340 頁の対人援助学マガジン 50 号を印刷すると、間違いなくプリンターのインクは空になり、カートリッジ取り替えになる。そこで安価な互換製品をセットすると、警告が出たり、動かなくなったりと不安定。純正品を使えというがバカ高い。なのにインク量は少なく、またすぐ交換しなくちゃならない。

しかもプリンターヘッドはそこそこの枚数を印刷するとエラーが出てヘッドの修理をなど言い出す。その結果、我が家と仕事場に、使わなくなったプリンターが 4 台も積んであった。それぞれの機種にしか使えない買い置きのインクカートリッジは無用の長物としてごみになる。キャノンもエプソンも全くなって商売をするのだろう。

▲月▲日

シリーズ開催している家族理解入門 zoom 講座。第 4 シリーズの最終回が今夜だった。

ここに合わせて声が出るように復活調整をしてきて、まずまずだったが、最後の最後にちょっと咳が出た。症状として残っているので、喘息の吸入薬をやっと今日の診察で貰った。咳で夜、眠れないことがあるのが辛い。



▲月▲日

長いこと立命館大学で保管してくれていた「木陰の物語」のパネルと掛け軸を、10年一区切りで引き取ることになった。自宅のピアノ室にかなり量の活動成果物がトラックで運搬されてきた。今後は H さんの世話になりながら、ここから発送で漫画展を展開していきたい。



▲月▲日

仕事場で一日中作業をしていたので、夕飯に外に出た。雨降りは分かっていたが、少しは歩いておこうと足をのびす。錦市場を超えた辺りにこの店があるのは気になっていた。それを前を通りかかって思い出した。

初めて入った店だが美味しかったし、感じも良かった。飲み屋じゃなくて飯屋。酒を飲まない私には良い具合。(気に入ったのでその後、4回行った)。



▲月▲日

いくら何でももう衣替えの時期。半袖アロハの出番はなかろうと入替。夏物は洗濯機に放り込んで対応OKだが、考えてみると去年、冬物の対応はできていなかった。クリーニング屋とかどうしていたのかなあ。

そうそう、エアコン不具合の修理にも来てもらった。先日の体調不良からの回復も含め、このところメンテナンスばかりにエネルギーが必要だ。

本当はものを創作したいばかりの人間なのに。愚痴ってないで新企画原稿を書こう。



▲月▲日

朝7時半、Nから電話。午前三時前に寝たばかりだ。寝ぼけた耳に、「今日、どうですか？」って何？

「産業遺産のここに行ってみたいな」と以前話してはいたけど、今日？

兵庫県の山奥、生野銀山、神子畑選鉱所跡。

まあ他に約束も予定もないし、髪でも切りに行こうかと思っただけなので、「じゃあ行こう！」と返事。45分後に迎えに来てくれて八時十五分出発。天気もいいし、秋の楽しいドライブ遠足になった。



▲月▲日

広島に行って帰る一日。新幹線に人が多いのが馴染まない。コロナの三年間で自分の感覚が変わっているのだろう。

京都も外国人の顔が目に見えて増えた。だから広島 WS も対面で行えるわけだが、zoom プログラムとの棲み分けも、自分の中では落ち着いてきている。まあいいとこ取りの併用だ。結局、コロナ禍の影響は私の場合、忙しくなっただけだ。

▲月▲日

昨晚観た「パーフェクトケア」はとんでもなく悪い奴らの面白い映画だった。高齢者ネタのものでは、群を抜いてひどい。後見人に関わる法的根拠と、それを悪用しようとするアメリカ訴訟社会の姿。

体調を崩して以来、久々のストレッチに出かけた。夕刻からは立命館茨木キャンパスで東日本大震災家族応援プロジェクトの例会。毎日、なんやかやあやるな。



▲月▲日

注文のしそこないで、ノンアルじゃないサングリアがきてしまった美味しいイタリアン店。一口飲んでわかったが、もう返せない。サングリアくらいならと水で薄めながら飲んだが酔っ払ってしまった。

それで思い出したのが、40年程も前のマドリードでの夜。知らずに飲んだ甘口の酒。ページャが出来上がる前に、ふらふらに酔っばらってしまい、妻に引きずられるようにホテルに戻った。あれ以来の感覚。帰路の JR で冷めてきてくれて助かったが、やっぱりアルコールはダメ。

▲月▲日

おおかた読み終えた頂き物のこの本が、こんなに面白いとは！結構分厚い本なのにあっていう間に読了しそうだ。民話、昔話、もともとあまり関心を向

けたことのない世界。なのに展開される噺を採集に巡礼する筆者の在り方も含めて、面白い。

私は「木陰の物語」で現在の民話を見える形にしているのかななんて思った。



▲月▲日

衝撃的な事実が発覚した。しまうまプリントでいくつもの出版物を作ってきた。その保管期限が最長3ヶ月で、更新は何度でも可能である事は承知していた。にもかかわらずこの夏、雑事に忙殺されてうっかりしていた。その結果 complete 上下巻(計280頁)、を始め、数冊の編集完成させたマンガライブラリーのデータが全てが消えた。注文できると思っていた本が絶版になった感覚だ。



▲月▲日

久しぶりの大阪伊丹空港。道が混んでいて空港バスは、京都を二十分遅れの出発。

いつものように多すぎる余裕で空港に向かうので、動いていれば遅延も心配なし。搭乗口を通過してから、馴染みのスペースで初めてこれを食べた。

まあ美味しかった。



▲月▲日

石狩湾の海岸近く、荒野に見える屋外にこれがある。小雨の石狩川、河口近く。講演前の空き時間に足を伸ばしてみた。

像に手のひらをしばらく当ててみたら、冷たさで震えがきた。吹雪が舞うような季節はまだだ。しかし小雨模様の海岸線の厳しそうな気配は半端ではない。さすが北海道。



▲月▲日

今夜は「ホンブロックラブ」企画の(「家族の練習問題」編集部ホンブロック)鼎談会。

マンガ「夜明け前」「宿題」を朗読して、スタッフ二人のトーク、私のトーク、三人でトークを繰り返す。いろんな話のカケラが登場して広がるので、私一人で話すのとはかなり違ったものになる。会員向けでアーカイブスも準備している。

▲月▲日

土曜朝一番、地下鉄で二条駅に向かう。山陰線で保津川を横目に亀岡に。年二回開催で六回目になる「学びの森」での講演。快調に二時間二十分、話しまくる。

市内に戻って二条駅界隈で一息つきながら書店

を覗くとこれが目についた。久々、沢木さんの長期インタビュー／ノンフィクション作品。

「今日は土曜か?」、曜日感覚もいい加減になっては来ているが、週末だ、あれこれ楽しもう。



▲月▲日

もう11月。あつという間に年末だ。ますます一年が短い気がするが、歳をとるとはそういうことか。

面白いと思える映画が少なくなったり、楽しめる小説が減ったりしている気がするが、ホントに楽しめるものを選ばないと!と思いつぎるからかなあ。

他の人にはくだらなくても、私には楽しいものを選ぼう。



▲月▲日

伊丹空港に向かっている。祝日の京都八条口発リムジンバス。高速道路の混雑も読めず、乗客混み具合も不明なので、とりあえず早めに家を出る。

とはいえ、京都にはたくさん観光客が来ているだろうが、今日、出てゆく人は少なからうと予測はしていた。そして実際がこれ。やっぱりそう、ガラガラ。



▲月▲日

午後から弘前市の依頼で講演。昨晚着いたので、朝、ゆっくり散歩してみた。奈良美智絡みで記憶にあった「弘前れんが倉庫美術館」。面白い趣向の展示。

古い倉庫がリノベされて今に羽ばたいている。明治の産業遺産が日本のあちこちで今の光を浴びているのが面白い。



▲月▲日

弘前 WS も二十年を越した。50 回くらいはここに通っていることになる。

馴染みの人に新しい人が加わって十八人で一日。だんだん年寄り口も出てきて、我ながらうるさい奴

だと思わぬでもない。それでも呼んで下さるのだから来る。あちらにもいいお歳の方も。でも敬老会ではない。

▲月▲日

夕刻から草津市での家族勉強会。参加者は新旧流動しながら、20 年以上経過。家族とか暮らしはイベントではなく日常だから、めったに卒業なんてなく続く。

家族の学びもそうだと思うので自分が飽きてしまふまで、あちこちで続けていこう。

▲月▲日

仕事場への経路、年に一度くらい寄り道をする岡崎付近。南禅寺の水路閣が好きで、子供の頃から何度も訪れている。京セラ美術館でやっているポテロ展は、あまり気乗りしていなかったが、そばまで来てるんだから、のぞいておこう。



▲月▲日

琵琶湖畔で暮らす著者(妹)の所に、多賀城市内のアパートで兄が亡くなったと知らせが入る。父子暮らしだった息子は児童相談所に保護された。駆けつけた妹は、次々と課題を片付ける。

終盤、多賀城駅前の図書館カフェで甥っ子と話す。なんだこりゃ、私絡みの場所・キーワードがてんこ盛りだ。ガイガイー気読み。





▲月▲日

2019 年秋、ウクライナを旅した時、知っていることは少なかった。行って知ったこと、ロシアの侵攻が始まって知ったことも少なくない。

でもこのグラフィック・ノベルは、今のようなことになる前、ソ連時代のロシアとウクライナの出来事を、個人の暮らし向きを描くことで、詳細に知らしめている。凄いなあとしか言葉がない。(以前、ベルリンのあちこちの街角で「つまづきの石」を目にした時も、同じことを思った。関心があったらスマホで検索してみてください。ホロコーストで亡くなったユダヤ人が収容所に連れ去られた時に住んでいた家の前の道端に、名前と略歴の記された10センチほどの金属板が埋められている)



映画「赤い闇～スターリンの冷たい大地で」(2020)でも観たが、1932-33 ウクライナで起きた大飢饉による数百万人の死をホロドモール(飢餓による殺人)と呼ぶ。

スターリンの中央政府が引き起こした人道に対する罪として、認定を世界各国に求めている。豊かな大地の実りを根こそぎ持っていかれた村々では飢餓による人喰いが…



▲月▲日

JR品川駅から徒歩10分の東京海洋大学をお借りして家族理解WS、第67回目。広い会場で密にならず、十八人で六時間。

オープニングトーク、気分よく話し出したら止まらなくなって三時間一气。高齢者は運転に限らず、アクセルとブレーキ問題を考えねば！と自戒。

▲月▲日

大井町のホテルからJR直通なので鶯谷駅に。初めての駅前から散歩。近いのか遠いのかも分からん。無事到着して他に客のいない池波正太郎文庫を楽しむ。

長野・上田市の池波正太郎真田文学館も行ったことがあるので、こちらにも来てみた。十分楽しんだ後、浅草まで合羽橋ブラブラ、目についたどぜうを食す。



▲月▲日

マンガ集団ぼむの月例会。うまくて安いスペイン料理ベジョータ ムーチョでランチ。その後、四条烏丸スタバのこんな青空席で二時間ほどの二次会。70歳越えの七人でワイファイじゃなくて、ワイワイ。50年もこんな月例会を続けていると、それぞれの人生、家庭にも様々な変化はある。だから昔話も今話もたくさんある。



▲月▲日

聞いたことのない出版社の新書が 35 万部も売れているとか。一年で 20 刷になっている。

この著者は読んだことはないが知っている。そんなわけで、普段購入しそうでない本を手にした。2 時間くらいで読めたが、私は「そうそう」ばかり言っていた。読んで良かったのか、読まなくても良かったのか。



▲月▲日

夜中に netflix を見ている目についた。公開時に気にはなっていたがなかなかアニメを観に映画館までは行かない。ちょっと覗くつもりだったが、見始めたら、あらあら終わりまで。

なんやこれ？と見終わっても思うが、同時にほろりとしてしまった自分もある。いい娘だ。



▲月▲日

封切りを心待ちにしていた。久々の感覚。でも、原作が良かった小説の映画化は、たいていガッカリに終わる。そんなことも承知で、楽しみにすることに決めた。だから初日に映画館に行く予定を入れていた。

チラシは近年一番気に入っている。映画らしく別物として完成していることを願う。



▲月▲日

「ザリガニの鳴くところ」を観た。本では想像に限界のある湿地の美しさに出会えた。プロローグの画面展開は映画にしか出来ない。

ただ、原作を読んでいない人には、どのような映画に見えたのだろうかと気になってしかたがない。

それは原作も映画も、共に批判されてほしくない気持ちの現れだ。この物語の結末について、いろんな感想があったのを知っている。あんな結末でなくても良かったんじゃないかとか。

そうかもしれないし、映画もあんな法廷物に見せなくても良かったのではとの意見もわかる。

実際どのようにバスで戻って来たのか、そのシーンがない事に、サスペンス好きの人は腑に落ちないと語るのもわかる。

でも、そんなことはどうでもいいのだ。映画も名作でなくていい。あの原作を大事に映像化されていたからそれでいいのだ。

読んでから観るか、観てから読むかは、昔からある議論だが、断然前者だ。そして原作のファンになってから、あの湿地におもむいてほしいと思う。

▲月▲日

zoom 開催の対人援助学会に参加している。今日、新潟水俣病がテーマで、日本社会の変わらぬ

構造が改めて浮き彫りになった。

私には「嘘」という誰もが使う手のことが興味深かった。嘘とは短期戦略の人の手段なのだと考えると、嘘はいけないなんて、子どもっぽいことを言っていないですむ。

17:31

4G

## 第14回大会の概要

主催：対人援助学会・退院支援研究会

日程：2022年11月19日（土）～20日（日）※WEB上での開催

テーマ：「新潟水俣病と私たち」

会場：WEB上での開催（ポスターセッション以外はZoomを使用）

プログラム概要：

### 1. Zoom・映像によるもの

11月19日（土） 9:00-9:30	大会長 開会挨拶 事務局からの連絡事項
9:30-11:00	公募企画ワークショップ① 対人援助学マガジン特別企画「リアルタイム」 企画者：大谷多加志（京都光華女子大学） 千葉晃央（京都光華女子大学） 田土郎（立命館大学大学院）
11:00-12:30	退院支援研究会企画ワークショップ 「新潟水俣病のいま」 企画者：本間 毅（退院支援研究会） 共同企画者・オーガナイザー：萩野 直樹 ゲストスピーカー：水澤 洋（新潟水俣病 齋藤 恒（新潟医療生
12:30-13:00	休憩
13:00-14:00	理事会企画① 「昭和電工鹿瀬工場跡」フィールドワーク （30分の討論含む）
14:00-17:00	理事会企画② 齋藤恒先生インタビュー動画視聴 （1時間の討論含む）
11月20日（日）	

humanservices.jp